反復夢と自我同一性の関係の検討

森田修平*・松下姫歌*

Relationship between recurrent dreams and ego identity

Shuhei Morita*　Himeka Matsushita*

The purpose of this study was to examine the relationship between recurrent dreams and ego identity. It is said that recurrent dreams can tell dreamers about their problems. In adolescence, people may face problems such as Erikson's developmental task for achieving ego identity. If having a recurrent dream implies working toward achieving a developmental task, it would imply that young people who have recurrent dreams *NOW* are working toward achieving a *PREVIOUS* developmental task. Two hundred and twenty university students answered a questionnaire about their recurrent dreams as an index of ego identity and gave free descriptions of their recurrent (or impressive) dreams. These students were divided into four categories based on their responses. The results of this study were as follows: (1) The group of recurrent dreamers achieved developmental tasks better than other types of dreamers, and (2) recurrent dream has possibilities about the function to support achieving developmental Task using inner contents.

Key Words : recurrent dream, ego identity, Erikson's developmental task

問題

Ⅰ　臨床場面における夢とその象徴表現の意義

夢 (dream) は睡眠中に起こる現象の一つである。夢を見ることにはどのような意味があるのだろうか。夢の意味に関する代表的な理論に，精神分析を提唱した Freud (1900 高橋訳 1969) による「夢は願望充足である」という論がある。これは睡眠により自我活動の水準が下がり，普段は意識下に抑圧している潜在的な願望が，検閲によって変形され，意識に上ってくるという過程を論じたものである。つまり，夢は潜在的願望が偽装されたものであり，その本来の意味を顕にすることが，夢判断であるとされる。神経症の原因は，その潜在内容，心の中の無意識の内容形成物が正確に意識化されないことにあり，潜在夢を始めとした心の潜在内容を読み解くことは，そのまま神経症の治療につながるとされる。つまり，夢分析はそのまま神経症の治療法である。

* 広島大学大学院教育学研究科 (Graduate School of Education, Hiroshima University)

これに対し，分析心理学を提唱した Jung (1964 河合訳 1975) は，心を意識と無意識からなるものとし，「夢の一般的な機能は，微妙な方法で心全体の平衡性をとりもどさせるような夢の材料を産出することによって，心理的な平衡を回復させる試みなのである」と述べており，これを「夢の補足的（あるいは，補償的）役割」と呼んでいる。心の全体性が揺らぐ危機に関し，Jung (1952 野村訳 1985) は，「意識と無意識の間の亀裂が広がるほど，人格の分裂が近づいてくる，その結果は，神経症的気質のひとなら神経症，精神病の素質のあるひとなら精神分裂病，つまり人格の崩壊である」と述べ，「治療が目指すのは，無意識の傾向を意識に統合することによって分裂を減少させ，うまくゆけば解消することである」と述べている。さらに，こうした心の危機の治療に関し，Jung (1984 入江訳 2001) は，「自分の心理や主観的な世界において誤っていることのすべて，私たちが自分自身について知るべきことのすべてについて，夢は私たちに情報を与えてくれる」と述べており，主観的な世界が誤っている時，つまり意識によって偏った捉えられ方をして，無意識も含めた心全体の体験とはズレが生じている時，夢を産出することで無意識からのメッセージを運び，意識と無意識のつながりを回復する。夢は心全体のバランスを取り戻す役割を持つのである。

心理臨床において，河合 (1967) は，夢や夢分析を Jung 派の中核をなしている重要なものであるとしている。また，名島 (1995) は，面接場面において夢を利用する意義について，夢はクライエントに対する共感性を高める手段になること，夢が豊かな情報を持っていること，クライエントと言葉によるコミュニケーションが難しいとき，夢がコミュニケーションの通路となる可能性を有していること，夢においてクライエントの過去が再現されやすいこと，治療終了後もクライエントにとって自己吟味の有益な手段になることの 5 点を挙げている。

夢を考える上で重要な概念に象徴 (symbol) がある。象徴は例えば「A は B を表す」すなわち「A=B」という完全な置き換えが成立するものとは異なる。Jung (1964 河合訳 1985) はそれを「記号」として区別する。Freud (1900 高橋訳 1969) は，「（夢に）利用された象徴の中には，いつも必ずといって差し支えない程度に同一の事柄を意味する象徴もむろんたくさんある」と述べつつ，「類型的に通用する動機づけのほかに，個人的な動機づけをも許容するような象徴が選び出される」，「夢象徴はしばしば多義的である」とも述べている。Jung (1964 河合訳 1985) は，夢の象徴は，「人間の心の本能的な部分から合理的な部分に送られる重要なメッセージ伝達者である。それを解釈することによって貧困な意識は豊かになり，忘れられた本能の言葉をふたたび理解することを学びとる」と述べており，また，「人間は近代化の中で失ってしまった，自然との情動的な無意識的同一性を補償するのが夢の象徴」とも述べている。Bonime (1962 鑪・一丸・山本訳 1987) は，夢に出てくる象徴は，その意味が独特で，きわめて個性的な形で現れると言い，夢見者に独自の生活史の核をなすところから現れ，その人独自の経験に，認知的，情緒的にひとつの形を与えるものであるという。つまり，象徴は，夢を見ている夢主自身のパーソナリティたる個が，文化や，本能的領域も含めた，個を超えたものとして多義的多面的に表現されたものであり，それらの象徴がどういった表現で現れ，その表現にどのような多面性を含み，どういった多義的意味を持っているのかを吟味していくことが，意識と無意識の統合を目指す臨床場面において夢を扱う上で重要であると言える。

Ⅱ　反復夢

ゲシュタルト派の Pearls (1973 倉戸訳 1990) は，夢見者が，現実での状況を切り抜け，何かを達成したい時などは，夢は繰り返し夢見者を追い立てると述べている。また，Bonime (1962 鑪・一丸・山本訳 1987) は，夢に現れてくる象徴の中には，その人独自の対人経験が姿を変えたものがあり，夢の中で同じ象徴が繰り返されるとき，夢見者のパーソナリティは変化していないと述べている。つまり，夢見者の未解決のパーソナリティ上の困難さが，同一の象徴の形を借りて夢に現れてくるとしている。

このように，何度も夢の中で同じ主題が同じ象徴表現で現れてくる夢を反復夢 (Recurrent dream) と言う。夢に関する研究者においては，反復夢は，夢見者の生活において何らかの解決していない問題との関連があると考えられているとされている (Fosshage & Loew 1978 遠藤訳 1983) 。

反復夢の定義については，全くないしほとんど同一の表現が繰り返されるものを指す場合と，同じ夢主題が繰り返される夢の二つに区別される (名島 2003) 。同じ夢主題が繰り返される夢というのは，例えば，「何かに追いかけられる夢」を見たとき，「追いかけられる」という主題は同じでも，その何かが，「男性」だったり，「犬」だったりするというように，表現が変化するような場合も含むということである。Bonime (1962 鑪・一丸・山本訳 1987) は，象徴的表現が同じ形で繰り返されるもののみを，反復夢としている。しかし，反復夢を単に「繰り返される要素や象徴表現を持つ夢」とする研究者もおり (Brown & Donderi 1986) ，これに関し， Zadra (1996) は，内容が夢見者によって「いつも同じ」ないし「ほとんどいつも同じ」だと評定される場合を反復夢としており，同じ夢主題が客観的にいつも同じ表現をとるか否かではなく，夢見者本人にとって「同じ」と感じるか否かという主観に重点を置いている。本研究においても，反復夢を，夢主題やその表現が夢見者にとって「同じ」と感じ「繰り返し見た」と感じる夢として捉える。加えて，調査研究における反復夢の操作的定義としては，Brown & Donderi (1986)，Zadra (1996) ともに，少なくとも 6 ヶ月以上の期間にわたって反復して見ている夢という条件を設けている。しかし，本研究では繰り返す象徴表現や主観性を重視し，反復夢を夢見者の主観から，同じような 2 度以上見た夢と定義する。

反復夢についての調査研究には心理的健康との関連や発達的観点からのものがある。反復夢と心理的健康との関係については Brown & Donderi (1986) の研究がある。心理的苦痛と反復夢に関係があるという仮説のもと，反復夢が見られなくなることが心理的健康の上昇のシグナルと考え，参加者を『反復夢を現在見ている人』(Recurrent Dreamer, 以下 RD) ，『反復夢を今は見ていないが，見たことのある人』(Past Recurrent Dreamer, 以下 PRD) ，『反復夢を見たことのない人』(Non-Recurrent Dreamer, 以下 NRD) のグループに分け，STAI，ベックの抑うつ尺度などの健康状態に関する尺度に対する回答と，2 週間分の思い出せる夢への記述を求めた。その結果，RD 群では，他の 2 つのグループよりも健康状態に関する尺度得点が，総じて低く，心理的健康状態があまり良くないことが示され，RD 群は NRD 群よりもネガティブな内容の夢を見ることが多いことが示された。

発達的観点における研究では，従来，反復夢に限らない，夢全般と Erikson (1959　小此木訳　1973) の提唱するライフサイクルにおける発達的課題との関連について調査したものがあり，児童期 (小学生)・青年期 (大学生)・成人期 (社会人) によって夢主題が異なり，各時期それぞれに抱える課題

が現れること (鑪・平野 1985) や，Rasmussen の自我同一性尺度に基づく同一性得点と夢主題の関係においては，男性では，同一性を確立している群は夢の中でも身近な他者と相互交流を行っているのに対し，同一性が混乱している群は夢の中で追いつめられた弱い自分を体験している可能性があること (辻河 1990) が示されている。このように，夢を見ることは，自らの発達的主題と深く関係していると考えられるが，反復夢は，その性質がより強く現れるのではないかと考えられる。

反復夢と発達との関係については Zadra (1996) の研究がある。彼は，163 の反復夢を分析し，12 歳までに見られた反復夢とそれより後の 18 歳以上の成年期の時期に見られた反復夢の主題に関して，夢の内容に違いがあることを示した。例えば，全体として最も多かった夢は「追いかけられる夢」であり，12 歳までにおいては，「追いかけられる夢」のうち，「怪物や凶暴な動物，魔女，悪霊など」に追いかけられているものが 86 パーセントであるのに対し，成人期では，19 パーセントだった。一方，成人期では，「家の修繕」，「結婚」や「車の運転」など 12 歳までの時期に見られなかった内容の反復夢が現れた。この Zadara (1996) に関し，反復夢が夢見者の未解決の課題を示しているという観点から考えると，児童期と 18 歳以上の成人期による反復夢の内容の違いは，Erikson (1959 小此木訳 1973) の提唱する発達的課題と関係していると考えられる。すなわち，12 歳までに「怪物などに追いかけられる夢」が多いことは，安全感が揺さぶられる，怪物を抑制できる自我の強さがまだ得られていないという，児童期までの基本的信頼感から勤勉性の課題と関係し，18 歳以後に，「家の修繕」，「結婚」や「車の運転」という主題が増えることは，他者との関係性の中で形作られる，青年期の自我同一性の獲得の課題，成人期の親密性獲得の課題と関係していると考えられる。

ただし，Zadra (1996) の研究では，発達的時期の区分を，12 歳以前と 18 歳以後の成年期としており，18 歳以後の時期は，青年期・成人期を含む広い範囲にまたがっている。しかし，青年期と成人期では発達的課題が異なると考えられるため，その点を区別してより詳細に検討する必要がある。そこで本研究では，その端緒として，大学生という青年期に対象をしぼって検討する。

Ⅲ　青年期の自我同一性と反復夢

Erikson (1959 小此木訳 1973) は，青年期の課題を自我同一性の獲得におき，自我同一性とは，自我が特定の社会的現実の枠組みの中で定義されている自我へと発達しつつあるという確信をもつ感覚であるとしている。これに関し，鑪・山本・宮下 (1984) は，自我同一性とは，他者の中で自己が独自の存在であることを認め，一貫した自分らしさを維持できている状態としている。青年は，成年期の自立に向けて，自我同一性の確立と拡散に伴う，多くの課題を抱えていると考えられる。

夢に時期ごとの発達課題が現れ，また，反復夢が繰り返し課題を夢見者に迫っているとすれば，反復夢を見ることは，未解決の心的課題と取り組んでいる状態と考えられる。つまり，青年期において，反復夢を今現在見ている人は，青年期の自我同一性の獲得という発達課題に加え，それまでの未解決の発達課題も含めて心的に取り組んでいるのではないかと考えられる。自我同一性を獲得するには，それまでの発達課題を「自分とは何か」という相のもとに捉え直す意味も含まれると考えられる。

加えて，Brown & Donderi (1986) の調査において，反復夢の経験状況で心理的健康状態に差が見られたのは，反復夢によって示された課題に向かい合っている最中であるか，まだ向き合っていな

いかの違いと考えられる。さらに，青年期の区分については通常 13 歳から 20 歳頃までを指すことが多いが，心理社会的に自立する時期を成人期として捉えた場合，最近では，おおよそ大学卒業頃までを指すことが多い。本研究では，自立に向けての自我同一性の主題がもっとも際立つと考えられる，青年期後期にあたる大学生を対象とする。

以上の諸点をふまえ，本研究では，青年期後期にあたる大学生を対象に，反復夢と青年期までの自我同一性にまつわる各発達課題の達成度との関係を検討する。

目的

本研究の目的は，大学入学以後の反復夢の経験状況と自我同一性にまつわる青年期までの各期の発達課題との関係を検討することとする。加えて，反復夢の経験状況と夢主題や象徴，働きとの関係についても，探索的に調査する。

方法

本研究では，本調査の前に，予備調査を行った。

予備調査

目的

反復夢の経験状況 (以下，反復夢の経験型とする) および内容について問う質問紙を作成することを目的とする。

方法

検討協力者：臨床心理学を専攻する大学院生と大学生 10 名，および臨床心理学を専門とする教員 1 名に検討を依頼した。

実施手続き：反復夢に関する先行研究をもとに，以下に示す，夢見に関する質問紙を独自に作成して実施し，質問紙の妥当性や問題点について意見を求めた。

①夢見に関する質問紙

1) 反復夢の経験型をたずねるチェック項目。反復夢の経験型については，Brown & Donderi (1986) に倣い,『反復夢を現在見ている人』(RD),『反復夢を今は見ていないが，見たことのある人』(PRD),『反復夢を見たことのない人』 (NRD) とした。反復夢については，「今までに，同じような，似ている夢を 2 回以上見たことがある」とし，その経験状況について,『今現在繰り返し見ている』,『以前，繰り返し見ていたことがある』,『繰り返す夢を見たことがない』の項目を選ぶという形で回答を求めた。

2) 1 において，RD および PRD をチェックした場合には，その反復夢について，「その内容や，どのような所が似ていたかを尋ねる自由記述欄」，および，「最も良く覚えている反復夢に関して可能なかぎり詳細な記述を求めた自由記述欄」への回答を求めた。

結果

質問紙の妥当性の問題について，①PRD 群には，かつて反復夢を見ていたと思われるが，内容までは覚えていないという群が存在する可能性，②RD 群，PRD 群の質問紙における記入量が，かつ

て反復無を見ていたと思われるが，内容までは覚えていない群，および NRD 群より多くなり，それを嫌って経験型のチェックが不誠実になる可能性，③夢記述への導入の工夫の必要性の 3 点が挙げられ，それぞれについて以下のように改善し，本調査で用いることとした。①「かつて反復夢を見ていたが，内容までは覚えていない」群としてチェック項目に「PRD-群」を追加する。②PRD-群，NRD 群にも，印象夢 (impressive dream) の記述を求める項目を用意し，作業量を公平にするとともに，「反復夢を見ていない」あるいは「見ても覚えていない」という群の性質を検討できるようにする。印象夢は，夢が意識に残って留まり，夢見者の主題と関わると考えられる点で反復夢と類似する側面があると考えられる。③夢の自由記述がしやすくなるよう，導入として，最近見た夢に関する自由記述欄を設ける。

本調査

目的

本研究では，反復夢を「今までに，同じような，似ている夢を 2 回以上見たことがある」とし，大学生の反復夢の経験状況 (RD,PRD,PRD-,NRD) と，自我同一性にまつわる各発達課題の達成度との関係を検討することを目的とする。さらに，反復夢の経験型と夢主題や象徴，働きとの関係についても，探索的に検討する。

方法

調査協力者および分析対象者：A 県内にある 4 年制大学生 225 名が調査協力者をつとめた。このうち, データの欠損のあった 3 名と, 外れ値が見られた 2 名を除いた, 大学生男女 220 名 (男性 85 名，女性 115 名，平均年齢 20.25 歳，SD＝1.02) を分析対象者とした。

調査時期：2008 年 11 月。

調査手続き：下記の質問紙を集団法で実施した。配布時に，回答は無記名で行い，データは個人が特定されない形で扱われること，思った通り考え込まず回答すること，回答拒否が可能であることを伝えた。

・調査手続き質問紙の構成

①夢見に関する質問紙

1) 1 番新しく見た夢に関する自由記述項目。夢への回答への導入として，「覚えている夢の中で，1 番新しく見た夢に関する自由記述欄」への回答を求めた。

2) 反復夢の経験型をたずねるチェック項目。反復夢の経験型については，Brown & Donderi (1986) ，および予備調査の結果より，『反復夢を現在見ている人』(RD),『反復夢を今は見ていないが，見たことのある人』(PRD),『かつて反復夢を見ていたが，内容までは覚えていない人』(PRD-),『反復夢を見たことのない人』(NRD) とした。反復夢については，「今までに，同じような，似ている夢を 2 回以上見たことがある」とし，その経験状況について,『今現在繰り返し見ている』,『以前, 繰り返し見ていたことがある』,『以前繰り返し見ていた気がするが, 内容までは覚えていない』,『繰り返す夢を見たことがない』の項目を選ぶという形で回答を求めた。

3) 反復夢に関する自由記述項目。2 において，RD および PRD をチェックした場合には，その反復夢について，「その内容や，どのような所が似ていたかを尋ねる自由記述欄」，および，「最も良く

覚えている反復夢に関して可能なかぎり詳細な記述を求めた自由記述欄」，さらに，「反復夢を見ていた時期，期間に関する自由記述欄」への回答を求めた。

4) 印象夢に関する自由記述項目。2 において，PRD-および NRD をチェックした場合には，反復夢の代わりに，「これまで見た夢の中で，最も印象的だった夢に関する自由記述欄」，および「その印象夢を見た時期の自由項目欄」への回答を求めた。

②自我同一性の確立の程度：Rasmussen の自我状態尺度邦訳版 (宮下 1987, Rasmussen's Ego Identity Scale, 以下 REIS)。Rasmussen (1964) の自我同一性尺度の邦訳版 (宮下 1981) を，宮下 (1987) が，改めて信頼性・妥当性の検討を行ったものを用いた。これは，Erikson の個体発達分化の図式における，乳児期の課題とされる「Ⅰ基本的信頼対基本的不信」，幼児前期の発達課題とされる「Ⅱ自律性対恥，疑惑」，幼児後期の発達課題とされる「Ⅲ自主性対罪悪感」，児童期の発達課題とされる「Ⅳ勤勉性対劣等感」，青年期の発達課題とされる「Ⅴ同一性対同一性拡散」，成人期初期の発達課題とされる「Ⅵ親密性対孤立」の 6 因子 67 項目。「全くそう思わない」（1 点）から「非常にそう思う」（7 点）までの 7 件法。得点が高いほど，その下位尺度における発達課題の達成度合いが高いことを示す。6 因子の合計得点は全体としての自我同一性の確立の程度を示す。

③フェイス項目：学部，年齢，性別を問う項目を設けた。

結果

Ⅰ　反復夢の経験型による群わけ

分析対象者 220 人について，夢見に関する質問紙で問うた，反復夢の RD，PRD，PRD-，NRD の 4 つの経験型を夢群とし，群ごとに人数と生起率を算出した (表 1) 。その結果，PRD 群が約 40 パーセントと最も多く，RD 群が約 7 パーセントと最も少なかった。

表1　反復夢の経験型（夢群）とその人数および生起率

夢群	RD	PRD	PRD-	NRD	合計	
人数	16	89	62	53	220	（人）
%	7.3	40.4	28.2	24.1	100	（%）

凡例：RD「反復夢を現在見ている人」，PRD「反復夢を今は見ていないが，かつて見ていた人」，PRD−「反復夢を以前繰り返し見ていた気がするが，内容までは忘れてしまった人」，NRD「反復夢を見たことがない人」

Ⅱ　夢群間の自我同一性の確立の程度および各発達課題の達成度合いの比較

夢群（RD,PRD,PRD-,NRD）と自我同一性の達成度との関係を検討するため，夢群を独立変数，REIS の尺度合計得点を従属変数として，1 要因 4 水準の分散分析を行った。また，各下位尺度において，同じく，夢群を独立変数，REIS の下位尺度合計得点を従属変数として，1 要因 4 水準の分散分析を行った（図 1，図 2，図 3)。

その結果，まず，REIS の尺度得点合計で示される，自我同一性の確立の程度に関し，夢群の主効果が見られ，RD 群は PRD 群よりも REIS 得点が高く，自我同一性の確立の程度が高かった ($F(3,220) = 6.06$, $p<.01$)。加えて，RD 群は PRD-群よりも REIS 得点が高く，自我同一性の確立の程度が高か

った ($F(3,220) = 5.71, p<.05$)。

次に，下位尺度において，第Ⅰ尺度と第Ⅵ尺度で夢群の主効果が見られ，第Ⅰ尺度得点で RD 群は PRD 群よりも REIS 得点が高く，基本的信頼の発達課題の達成の度合いが高かった ($F(3,220) = 1.85, p<.05$)。また，RD 群は PRD-群よりも REIS 得点が高くなる傾向および，基本的信頼の発達課題の達成の度合いが高くなる傾向が見られた ($F(3,220) = 1.98, p<.10$)。

第Ⅵ尺度において，RD 群は PRD-群よりも REIS 得点が高く，REIS によって示される，親密性対孤立に関する発達課題の達成度合いの程度が高かった ($F(3,220) = 1.64, p<.05$)。また，RD 群は NRD 群よりも第Ⅵ尺度の得点が高くなり，同じく，親密性対孤立に関する発達課題の達成度合いの程度が高かった ($F(3,220) = 1.71, p<.05$)。

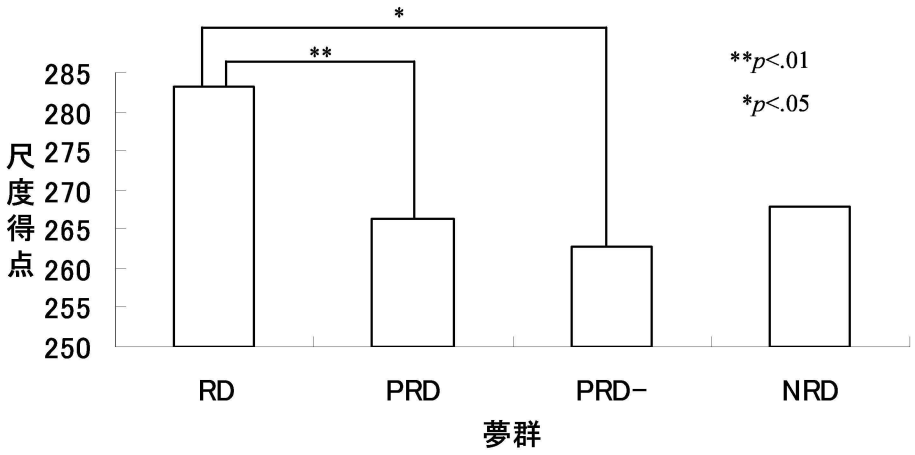

図 1 尺度全体における夢群ごとの尺度得点

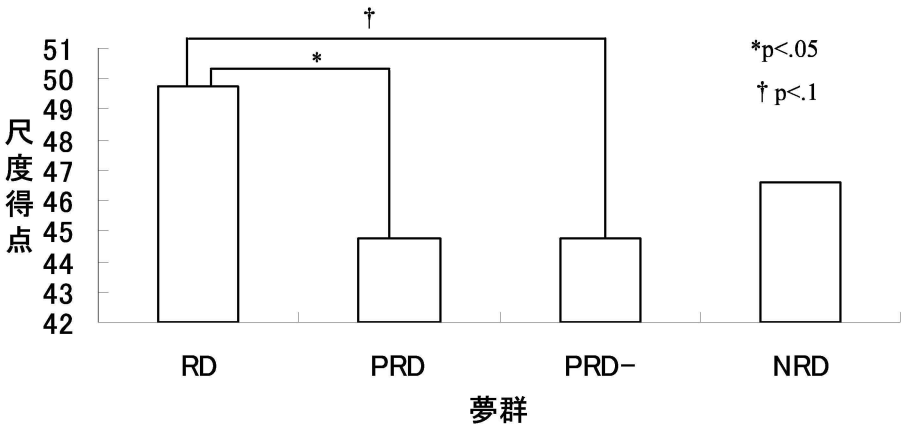

図 2 第Ⅰ尺度における夢群ごとの尺度得点

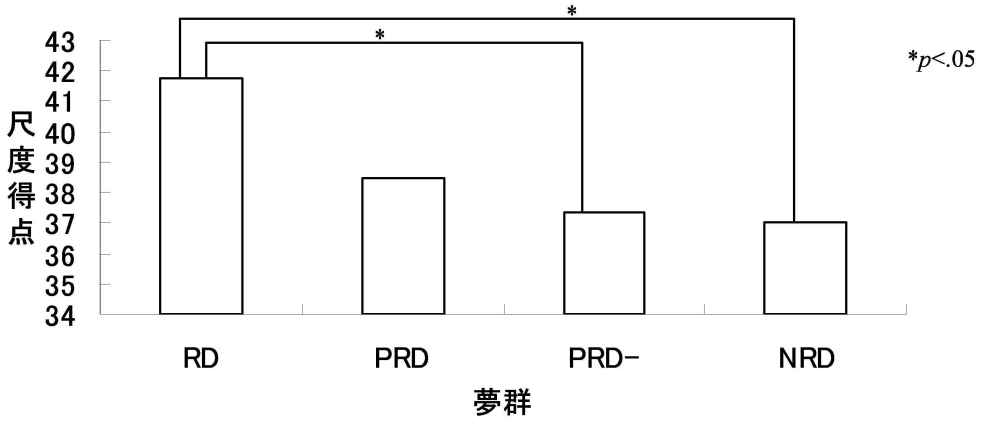

図 3 第Ⅵ尺度における夢群ごとの尺度得点

Ⅲ　各夢群における，反復夢または印象夢の主題の人数

反復夢を見て覚えている RD 群および PRD 群においては，反復夢の主題を分類し，群ごとに各主題について人数および生起率を算出した (表 2,3)。反復夢との関わりが薄いと考えられる PRD-群および NRD 群については，印象夢の主題を分類し，群ごとに各主題の人数および生起率を算出した (表 4,5)。なお，夢主題の分類については，鑪 (1976) の典型夢の分類を参考にした。

表2 RD群における反復夢の主題とその人数および生起率

主題	人数（人）	%
追いかけられる夢	3	18
夢自我が何らかの形で移動する夢	2	15
戦う夢	1	6
遅れる夢	1	6
価値あるものを失う夢	1	6
亡くなった人が生きている夢	1	6
習い事、部活の夢	1	6
その他	6	37
合計	16	100

表3 PRD群における反復夢の主題とその人数および生起率		
主題	人数（人）	%
追いかけられる夢	14	16
夢自我が危機にあう夢	9	10
夢自我が何らかの形で移動する夢	9	10
落ちる夢	5	6
ゲームやアニメといったファンタジーの夢	5	6
遅れる夢	4	4.5
習い事・部活の夢	4	4.5
夢自我以外が危機にあう夢	4	4.5
空を飛ぶ夢	3	3.25
災害に見舞われる夢	3	3.25
戦う夢	2	2
亡くなった人が生きている夢	1	1
歯が抜ける夢	1	1
塔を登る夢	1	1
試験の夢	1	1
価値あるものを失う夢	1	1
虫の夢	1	1
トイレに行けない夢	1	1
その他	14	16
未記入	5	6
回答不能	1	1
合計	89	100

表4 PRD−群における印象夢の主題とその人数および生起率		
主題	人数（人）	%
追いかけられる夢	18	29
夢自我以外が危機にあう夢	6	10
夢自我が危機にあう夢	4	6.5
様々な時期の友人と交流する夢	4	6.5
ゲームやアニメといったファンタジーの夢	3	5
夢自我が何らかの形で移動する夢	3	5
空を飛ぶ夢	3	5
遅れる夢	2	3
戦う夢	1	1.5
習い事・部活の夢	1	1.5
災害に見舞われる夢	1	1.5
歯が抜ける夢	1	1.5
試験の夢	1	1.5
覚えていない	4	6.5
その他	10	16
合計	62	100

表5 NRD群における印象夢の主題とその人数および生起率		
主題	人数（人）	%
夢自我以外が危機にあう夢	12	22.5
追いかけられる夢	10	18.5
夢自我が危機にあう夢	4	7.5
様々な時期の友人と交流する夢	3	5.5
虫の夢	2	4
落ちる夢	2	4
遅れる夢	2	4
飛ぶ夢	2	4
戦う夢	1	2
ゲームやアニメといったファンタジーの夢	1	2
亡くなった人が生きている夢	1	2
性交する夢	1	2
その他	5	9
覚えていない	7	13
合計	53	100

RD 群，PRD 群の反復夢，PRD-群の印象夢において，最も多い夢主題は「追いかけられる夢」であり，NRD 群でも最も多い主題とほぼ同じ生起率で二番目に多かった。この主題は典型夢の一つであり，夢の体験型に関わらずよく見られるものであることがわかった。生起率については，RD 群は 18 パーセント，PRD 群は 16 パーセント，NRD 群は 18.5 パーセントであり，Zadra（1996）の研究における，成人では追いかけられる夢の生起率が 19 パーセントであったという結果にほぼ相当すると考えられる。PRD-群は 29 パーセントとこれより多く見える。ただし，RD 群が 16 人と非常に少ないため，生起率の有意差については，データを増やして検討する必要がある。

「追いかけられる夢」に加え，反復夢を現在見ている RD 群・かつて見ていた PRD 群の両方で 10 パーセント以上見られたものは「夢見者が何らかの形で移動する夢」であった。この夢主題は，反復夢を見たが覚えていない PRD-群の印象夢でも見られているが 5 パーセントと少なく，反復夢を見たことがない NRD 群の印象夢では見られていない。そのため，「夢見者が移動する夢」は反復夢を見て覚えている群の特徴的な夢と考えられる。その他，「夢見者が危機にあう夢」は PRD 群においては生起率が 10 パーセントと高いが，RD 群には見られず，PRD-群・NRD 群では「夢見者以外が危機にあう夢」がそれぞれ 10 パーセント，22.5 パーセントと高いという点に各群の違いが示唆されている。いずれも，今回のサンプルの範囲での結果であり，このような生起率の有意差についてはデータを増やして検討する必要がある。

今回は，データ数不足と紙面の制約のため，反復夢の主題や象徴，働きに関する探索的研究は，①全ての群に多く見られた「追いかけられる夢」が，反復夢を現在見ている RD 群と今は見ていない PRD 群でどう異なるか，②RD 群と PRD 群に多く見られた「夢見者が何らかの形で移動する夢」が両群でどう異なるか，という２点に絞って行った。

「追いかけられる夢」に関して，「夢群」，「追いかけてくるもの」，「反復夢を見ていた時期」を抽出した (表 6)。

表6　反復夢における「追いかけられる夢」主題の夢群，追いかけてくるもの，時期

No.	夢群	追いかけてくるもの	反復夢を見ていた時期
26	RD	盗賊	高校3年生時から
54	RD	大きな鎌をもった女の人	中学生から最近
76	RD	アニメの敵キャラ	昔から
216	PRD	大きな何か，記号？	保育園から小学校低学年にかけて
30	PRD	何か	5歳から数年おき
121	PRD	誰か	小学校低学年時
104	PRD	何か怖い動物	小学生時
195	PRD	集団ないし「何か」	小学生から中学生にかけて
132	PRD	誰か	小学生から中学生にかけて
12	PRD	あやしい人	小学生から高校生にかけて
32	PRD	映画エイリアンさながらの化物	中学生から高校生にかけて
80	PRD	敵	中学生から高校生にかけて
18	PRD	誰か	不定期
193	PRD	不明	忘れた
21	PRD	毛虫	小学校高学年時
83	PRD	家族とか友人	時期不明
188	PRD	知らない人と友人	1ヶ月前（大学2年生）

＊No.は，調査協力者を表す。

凡例：RD「反復夢を現在見ている人」，PRD「反復夢を今は見ていないが，かつて見ていた人」

RD 群では，盗賊やアニメの敵キャラクター，鎌を持った女性など，非現実的な対象が夢見者を追いかけており，その反復夢の開始時期を見ると，中学，高校などであった。

PRD 群で，夢見者を追いかけてくるものは，大きなもの，怪しい人，不明，誰か，など特定しない形で表現されていた。また，友人や家族など，身近な他者に追いかけられているものも見られた。反復夢の開始時期を見ると，保育園から大学生と幅広いが，小学生の間から高校生の間にかけての期間が多いようであった。

次に，「夢見者が何らかの形で移動する夢」に関して，「夢群」，「移動の状況」，「状況の特異性」，「反復夢を見ていた時期」を抽出した (表 7)。

表7　反復夢における「夢見者が何らかの形で移動する夢」主題の，夢群，移動の状況，状況の特異性，時期				
No.	夢群	移動の状況	状況の特異性	反復夢を見ていた時期
150	RD	同じ場所を車で通る夢	道沿いの斜面が同じ	長い間
223	RD	夜、見覚えのある場所を歩く夢	小学校の同級生から現在の友人まで出てくる。	2ヶ月に1回
135	PRD	立方体の大きなブロックが色々な動きをする中を歩く夢	大きな無彩色の立方体の積まれているブロックが動いたり回転する中を歩く。	幼稚園から中学生にかけて
38	PRD	迷って駅に着き、急勾配を急発射する夢。	同じ場所で迷い，辿り着いた駅で乗った電車は急勾配を急発進するので，驚く。	小学校高学年時
1	PRD	友人と進む夢	お化け屋敷のような空間。怖い思いをする。	小学生から中学生にかけて
187	PRD	運転手のいない車で走る	運転手がいなくなった車で，グランドキャニオンみたいな所を走りまくる。	小学校から中学校にかけて
177	PRD	丸太橋を渡る夢	落ちたら死んでしまうと思う。	中学生から高校生にかけて
218	PRD	中学校の校舎の中を走る（探索する）夢	最後は生徒会室に入って，知人に出くわして終わる。必ず1人は知人が出る。	高校生時
11	PRD	知らないところを歩く夢	現実には全く行ったことのない知らないところなのに，毎回同じ町を歩いている。	高校生から大学生にかけて
215	PRD	散歩をしている夢	地元の風景のようで，全然違う場所	高校生から大学生にかけて
49	PRD	泳ぐ夢。	水の（海）の中で呼吸しながら泳いでいる。	不規則
＊No.は，調査協力者を表す。				
凡例：RD「反復夢を現在見ている人」，PRD「反復夢を今は見ていないが，かつて見ていた人」				

RD 群では，車や徒歩，斜面という表現や，今までの知人に出会うという状況が見られた。

PRD 群では，散歩や泳ぐという表現や，急発進，橋から落ちそう，運転手のいない車など，身の危険を感じるような状態におかれているものが見られた。

考察

本研究では，大学生の反復夢の経験状況の群（RD，PRD，PRD-，NRD）ごとの，自我同一性をはじめとした発達課題との関係を検討し，探索的に反復夢の主題や象徴，働きに関して，検討した。

1　自我同一性の達成度と夢群の関係に関する考察

本研究の結果では，自我同一性の全体としての達成度については，反復夢を現在見ている人の方が，かつて見ていた人よりも高いことが示された。現在，反復夢を見ている人は，夢によって未解決の課題に心的に向き合って取り組んでいることを示していると考えられるが，そのことが自我同一性のつかめなさではなく，「自分をつかむ」ということにつながっている可能性が考えられる。

Brown & Donderi (1986) の結果では，反復夢を現在見ている人が今見ていない人・見たことがない人に比べて心理的健康が低いということが示されたが，このことは，現在，夢から未解決の課題を提示されるために，課題に対し悩むため，抑うつや不安が高まるという側面を示すものであり，今回の結果と照らして考えた場合，自我同一性の獲得プロセスに伴う必然的な体験と推測される。ただし，この点について明らかにするには，反復夢と自我同一性の達成度に加え，心理的健康に関

する指標を加えて検討する必要がある。

一方で，反復夢を現在見ている人よりも，かつて見ていた人の方が自我同一性の達成度が低いという結果からは，「反復夢が見られなくなる」ということが，必ずしも，自我同一性にまつわる課題の達成と直結するとは言えないことが明らかとなった。かつて夢によって呈示された課題については達成したために見なくなった可能性はあるかもしれないが，「現在の」「自分の」課題に関してはまだ取り組んでいない可能性を示していると考えられる。

自我同一性を支える，青年期までの各期の発達課題と反復夢の関係については，基本的信頼感（第Ⅰ尺度）について，反復夢を現在見ている人がかつて見ていた人よりもより形成されていることが示された。これに関し，鑪・山本・宮下（1984）は，基本的信頼が育まれる条件として，内的資質に対し深い自己信頼感を持つことを挙げている。今回の結果は，反復夢によって，無意識を含めた心の全体および中心である自己との交流が可能になることで，内的資質が汲み上げられ，自己信頼感が向上しているということを示唆するものと考えられる。加えて，親密性（第Ⅵ尺度）については，反復夢を覚えていない，または反復夢を見たことがない人は，現在見ている人よりも達成に至っていないことが示された。これは，基本的信頼感と同様に，内的資質と親密な関係を作り上げなければ，他者との親密性課題は達成されない（Erikson，1959　小此木訳　1973）という点から，反復夢を今現在見ることによって，自分自身の根源というべき心の働きに触れ，それによって，自分の本質が見えてくることにつながり，それは，他者にも自分と近しい内的資質，あるいは，他者の中にも自分と同じように，その他者だからこその主体性やその人らしさがあることを見出したりすることで，他者との親密性や他者と親密になる力を育むことにつながると考えられる。

２　反復夢の体験型と夢主題や象徴表現との関係についての探索的検討

1)「追いかけられる夢」

反復夢を現在見ている人は「非現実的な対象」に追いかけられていた。発達的観点から反復夢を検討した Zadra (1996) の調査結果では児童期に多く見られたものである。今回の結果では，夢見の開始時期は中学，高校の時であり，むしろ青年期の開始と対応している。「非現実的な対象に追いかけられる」意味については，「非現実的な対象」に追いかけられる夢の生起率が児童期から青年期，成人期にかけて変化するかどうかを検討するとともに，「非現実的な対象」の種類やそのような対象に追いかけられてどのような展開をたどるのかについて質的に検討する必要がある。

一方，かつて反復夢を見ていた人の多くは「大きなもの」「怪しい人」「不明」「誰か」など「具体性のないもの」に追いかけられ，怖いという感情の報告もあった。その点では，反復夢を現在見ている人の方が，“わからないもの”や“こわいもの”が「具体的」な姿をとって，その性質を示しつつあるという違いがあると言える。また，牧（2009）は，恐怖を伴う夢は，夢見者の主体性をつなぎ留めつつ，自己の不安に関わることを可能にするものであると述べている。かつて反復夢を見た人の夢の中における具体性のないはっきりしない自己の不安，そのはっきりしないものにも主体的に関わることを促す働きが反復夢にあるのかもしれない。

大学生時に反復夢を見た人の主題は，友人や家族など身近な他者に追いかけられているものであり，これは，鑪・平野（1985）の夢主題の研究の，大学生の発達的テーマとして，「同好会」，「友人」

といった主題が多く現れた結果と一致する。これより，反復夢は大学生という青年期の課題である自我同一性の一側面としての友人関係の構築,親からの自立などと関係がある可能性も考えられる。

2)「夢見者が何らかの形で移動する夢」

かつて反復夢を見ていた人では，「知らない場所」「怖い場所」「非現実的な空間」「息ができないはずの水の中」を移動したり，「迷う」「落ちたら死ぬ」「急発進して驚く」「運転手がいない状態で走る」という主体性のコントロール喪失にまつわる危機的状況を進んだり，馴染みのある場所の場合でも「探索」するというように，全体に，「わからない場所」や「主体性のコントロール」の「探索」的要素が見られるのに対し，反復夢を現在見ている人では，「同じ場所」「見覚えのある場所」を移動する，というように「わからない」感覚が少なくなっている。このことは，「追いかけられる夢」で，かつて反復夢を見ていた人では「わからないもの」に追われるが，現在見ている人では非現実的ながらも姿形が見えてきている点と共通する。したがって，反復夢を今見ているということは，現在，自分の中の「わからなさ」や「未獲得の主体性」を「姿かたちをもった」「馴染みのある」ものとしてつかみつつあるということを示している可能性が考えられる。ただし，いずれも，反復夢を現在見ている人の該当者が少ないため，今後，データを増やして検討する必要がある。

また，「夢見者が移動する夢」については，小・中学校の時期に見始めたものに関しては，おばけ屋敷や急勾配を急発車する列車，運転手のいない車など，危機的な状況に置かれるのに対し，高校以降に見始めたものを見ると，散歩や，ぶらぶら歩く，など，より落ち着いた内容である。このことも，児童期から青年期にかけての自我同一性の感覚の達成度やつかみ方の違いと関連することが考えられるが，これについても今後検討する必要がある。

結論および今後の課題

本研究では，反復夢を現在見ている人が，現在見ていない人や見たことがない人に比べて，自我同一性の確立の程度が高く，特に基本的信頼感および親密性という，自他の本質的基盤の獲得と関係が深いことが示された。夢主題やその象徴表現の検討では，反復夢が，様々な発達の時期に抱える課題を示している可能性が考えられた。ただし，今回は夢主題と発達課題との関係については，データ数が少ないために探索的な検討に留まった。今後の課題としては，対象者を増やし，今回の探索的研究で示唆された点について確証的研究をおこなう必要がある。加えて，反復夢には，内的な資質に関与し，自分自身をつかむ心的作業 (自我同一性の構成) を促進する働きが存在する可能性が考えられるが，その仮説を検討するためには，例えば，反復夢が見られた時期と象徴表現との関係などを含め，より詳細な質的分析を行う必要性がある。

引用文献

Brown,R.J., & Donderi, D. C. (1986). Dream content and self-reported well-being among recurrent dreamers, past recurrent dreamers, and nonrecurrent dreamers. *Journal of Personality and Social Psychology*, **50**, 612-623.

Jung, C. G. (1952). *Symbole der Wandlung: Analyse des Vorspiels einer Schizophrenie. VIerte,*

umgearbeitete Auflage von "Wandlungen und Symbole der Libido" Zürich: Rascher Verlag. (ユング C.G. 野村美紀子 (訳) (1985). 変容の象徴――精神分裂病の前駆症状―― 筑摩書房)

Jung, C. G. (1964). *Man and His Symbol.* London: Aldus Books Limited. (ユング C. G. 河合隼雄 (訳) (1975). 人間と象徴――無意識の世界―― 河出書房新社)

Jung, C. G. (1984). *DREAM ANALYSIS (Seminare)*. Princeton, N.J: Princeton University Press (ユング C.G. 入江良平 (訳) (2001). 夢分析 1 人文書院)

Erikson, E. H. (1959). *PSYCHOLOGICAL ISSUES IDENTITY AND THE LIFE CYCLE.* New York: International Universities Press. (エリクソン E. H. 小此木啓吾 (訳) (1973). 「自我同一性」アイデンティティとライフサイクル 誠信書房)

Pearls, F. S. (1973). *The Gestalt Approach & Eye Witness to Therapy*. Ben Lomond, California: Science & Behavior Books. (パールズ F. S. 倉戸ヨシヤ (訳) (1990). ゲシュタルト療法――その理論と実際 ナカニシヤ出版)

Freud. S. (1900). *DIE TRAUMDEUTUNG*. Leipzig F: Deuticke. (フロイト S. 高橋義孝 (訳) (1979). 夢判断 新潮文庫)

Fosshage, J. L. & Loew, C. A. (1978). *Dream Interpretation A Comparative Study*. New York: PMA Publishing Corp. (フォッシジ, L. A. & ローブ, C. A. 遠藤みどり (訳) (1983). 夢の解釈と臨床 星和書店)

Rasmussen, J. E. (1964). Relationship of Ego Identity to Psychosocial Effectiveness. *Psychological Report*, **15**,815-825.

河合隼雄 (1967). ユング心理学入門 培風館

牧　剛史 (2009). 不安夢の臨床心理学的意義に関する研究 佛教大学教育学部学会紀要, **8**, 35-44.

宮下一博 (1981). Rasmussen の自我同一性尺度の検討(Ⅰ)(Ⅱ) 中国四国心理学会論文集, **14**, 48-49.

宮下一博 (1987). Rasmussen の自我同一性尺度の日本語版の検討 教育心理学研究, **35**, 253-258.

名島潤慈 (1995). 精神分析的心理療法における夢の利用 熊本大学教育学部紀要, 人文科学, **44**, 333-361.

名島潤慈 (2003). 臨床場面における夢の利用【能動的夢分析】 誠信書房

鑪幹八郎 (1976). 夢分析入門 創元社

鑪幹八郎・山本力・宮下一博 (1984). 自我同一性研究の展望 ナカニシヤ出版

鑪幹八郎・平野　潔 (1985). 夢の主題に関する調査研究――性差・年齢差についての検討―― 広島大学教育学部紀要 第 1 部, **33**, 149-158.

辻河昌登 (1990). 大学生の夢の主題に関する調査研究 中国四国心理学会論文集, **23**, 80.

Bonime, W. (1962). *THE CLINICAL USE OF DREAMS*. New York: Da Capo Press. (ボニーム, W. 鑪幹八郎・一丸藤太郎・山本力 (訳) (1987). 夢の臨床的利用 誠信書房)

Zadra, A. L. (1996). Recurrent dreams: Their Relation to Life Events. In B, Deirdre (Ed.), *Trauma and Dreams*. Cambridge: Harvard University Press, pp.231-247.